「救援関西」発足32年の集い
～フクシマ これからもいっしょに 原発事故被害者を訪ねて～

2023年12月10日（日）

午後1:30～4:30

大阪市立総合生涯学習センター（第１研修室）大阪駅前第２ビル５階

資料代：800円，学生・障がい者400円

＊プログラム＊

1. ＜事務局報告＞ 今年の取り組みを振り返り 来年に向けて
   チェルノブイリ・フクシマと繋がって…
2. 福島事故被災地 訪問・交流報告
   「救援関西」のメンバー
3. ＜歌＆ギター＞ アカリ・トバリさん
4. 質疑応答と討論，アピールなど

「互いに顔の見える交流」をモットーにしてきた「救援関西」ですが、この４年間はコロナ・パンデミックに阻まれて、福島の被災地へ「訪問団」（複数の人数）で見学・交流に行くことができませんでした。感染対策にも気をつけながら、そろそろ大丈夫かな…と、10月８日～１１日、「救援関西」の４人のメンバーで福島事故の被災地を訪問してきました。現地では、今年の春に「チェルノブイリ事故37周年の集い」で福島の現状を話してくださった、楢葉町の佐藤龍彦さんがずっと車で案内をしてくださいました。

昨年、発足した「原発事故被害から健康と暮しを守る会」の第二回総会に参加したのを皮切りに（会場では紙芝居で震災・津波・原発事故を語り継いでいる岡洋子さんにも再会）、浪江町・請戸（漁師の高野武さん再会）、楢葉町（佐藤さん宅でご近所さんも一緒に交流）、浪江町・帰還困難区域の津島（「帰りたいが帰れない」と悩む武藤さんご夫妻を訪問：写真前列）、新地町で芋煮会（漁師の小野春雄さん、民俗学者の川島秀一さんも参加されて交流）、富岡町の「東電廃炉資料館」見学、飯舘村を通って福島市へ（昨年「発足31周年の集い」でお話を聞いた飯舘村の菅野哲さんを訪問）、さらに、いわき市（旅館内に「原子力災害考証館」を開いた古滝屋で、当主の里見喜生さんのお話を聞く）と、盛り沢山の旅でした。

「元の生活には戻れない」苦悩や葛藤がある中で、国と東電の責任を問い、健康と暮しを守る取り組み始めた被害者、汚染水海洋放出は開始されたが「断固反対」の決意を語る漁師さん、移住先で素晴らしい畑を切り盛りしている飯舘村民、等々、事故から１２年を経た被災地で、それぞれに「闘いながら生き続ける」人々の営みを垣間見た旅でもありました。

関西の皆さんにも、私たちの訪問報告をぜひ聞いていただき、「これからもフクシマといっしょに」何ができるか、今後の取り組みについて話し合いましょう。ぜひ、ご参加下さい！

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援関西

<問合せ> 電話：072-253-4644(いのまた) , 0797-74-6091(たなか), e-mail: cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp